

大気中の窒素を植物に有効利用



- 収穫物の生産性と品質の向上に -



酷暑対策



収穫物の品質向上



公式マスコット
チッピーくん™

水稻やその他の作物に

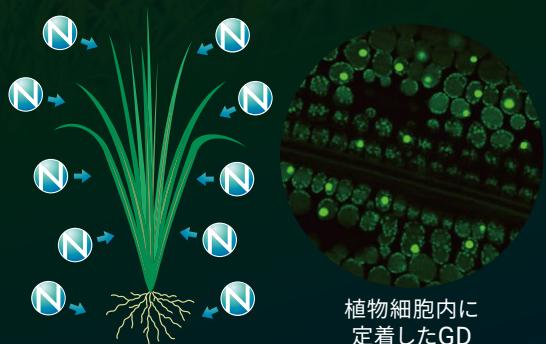


作物の生産性向上



肥培管理プログラム

葉から、植物体内に入り
空中窒素を供給!



植物細胞内に
定着したGD
(明るい点)

窒素固定菌 **Gd**※ とは?

※グルコンアセトバクター ジアゾトロフィカス

サトウキビから分離された微生物Gd
空気中の窒素を植物細胞内の隅々で固定し、
利用可能な形に変えることができるバクテリアです。

※これまでに知られた窒素固定菌とは異なり、植物細胞内にも共生し、
植物が窒素を必要とする場所（例えば葉緑体）で窒素を正確に固定します。



- Gdは根、茎、気孔等を通じて植物体内に入ります。
- Gdは植物と共生関係を築き、窒素の供給をサポートします。

水稻への施用例

低品質米に至るメカニズム

高温 日照不足

光合成の低下

アミノ酸合成障害

低品質米

エヌキャッチの施用

空中窒素の利用

でんぶん合成酵素を生産

乳白 未熟粒改善への期待

播種機で

(種子処理)



播種機の灌水装置への適用

育苗時処理で



オススメ

緑化初期～田植え3日前までに 注



本園処理で

(ドローンor通常散布)



幼穂形成期～出穂期散布

使用方法

農薬などの散布水量に準じて、本製品の必要量を水で希釈してください。

水稻(移植)	オススメ	育苗:播種同時処理(播種機での灌水処理) 緑化初期～田植え3日前まで(苗箱処理) 注※
水稻(直播)		本園:田植え後45日～出穂期 播種後15～30日(苗立ち期) 播種後60日～出穂期
たまねぎ、とうもろこし、てんさい	50aあたり 6.25g(1袋)	3～8葉期
麦類、豆類	※ドローン散布 水800mlに 1.25g/10a (水4Lに1袋 6.25g/50a)	3葉期～出穂期 開花期 ※降雪地帯の秋まき小麦の場合 起生期(茎立ち期)以降
ばれいしょ		萌芽期～塊茎肥大初期
野菜類		生育初期(本葉展開期～8葉期)
ぶどう		5葉期～果実肥大初期
その他の果樹類		萌芽期～果実肥大初期

※殺菌剤との混用不可、殺虫剤との混用は可。※非イオン系展着剤との混用がより効果的です。

※混用についての詳細は弊社までお問い合わせください。

製品概要

容量	1袋 6.25g 入り(標準施用で 50アール分)
施用方法	葉面散布、種子浸漬、水耕栽培養液など
施用時期	移植前(苗に散布)、移植後の生育期
施用回数	1回(基本)～複数回



水稻(播種 育苗時)の注処理方法※

使用方法	10アール分の苗箱に対して、1.25gを水に希釈して散布 ※箱あたりの水量目安 播種機施用時: 1～1.5L/箱 緑化後灌水時: 250～500ml/箱		
使用例 (1袋 6.25g)	播種密度	定植密度	処理箱数
	慣行	慣行	約100枚/50a
	疎植		45～65枚/50a
	密播	慣行	30～40枚/50a
		疎植	30～40枚/50a

窒素ゼロの 培地での実験

無処理は
10日後に死滅



Gdを処理した
水稻苗

取り扱い 保管上の注意

- 説明書をよく読み、対象作物、使用量、時期、回数などの使用方法を守り、記載内容以外に使用しないでください。
- 直射日光を避けて建物内の冷暗所(20°C以下)に保管してください。

使用上の注意

- 散布は日中高温時を避け、風の強くない朝夕の涼しいときに行ってください。
- 豪雨や強風の条件下では施用しないでください。
- 他資材とタンク内混合を行う場合は、必ず最後に混合してください。
- 開封後は製品の劣化が始まりますので、保管せず使い切ってください。



株式会社 ファイトクローム ファイトクロームは環境適合型資材で、日本の農業を応援しています ※「日本バイオスティミュラント協議会」会員

〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町2-11外濠スカイビルディング TEL 03-4316-4920 FAX 03-4316-4921 www.phyto.jp

公式チャンネル

